

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立姿川中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年(国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	229人	社会	229人	数学	228人
	理科	228人	英語	229人		

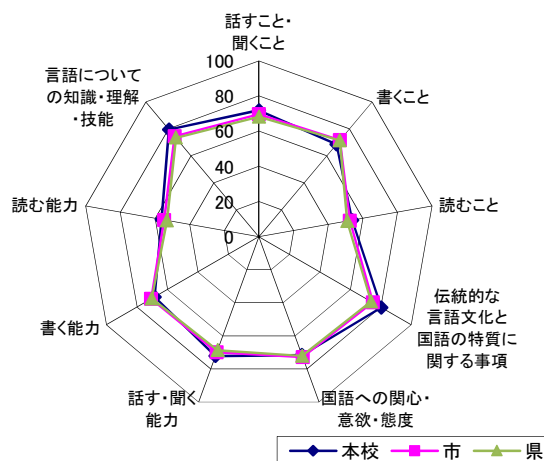
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立姿川中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	71.9	69.6	68.2
	書くこと	68.7	71.7	71.5
	読むこと	53.9	52.6	51.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.4	74.8	73.7
観点	国語への関心・意欲・態度	71.6	72.8	72.1
	話す・聞く能力	72.2	69.9	68.7
	書く能力	68.5	70.7	70.3
	読む能力	56.2	54.7	53.1
	言語についての知識・理解・技能	79.6	74.5	73.5



★指導の工夫と改善

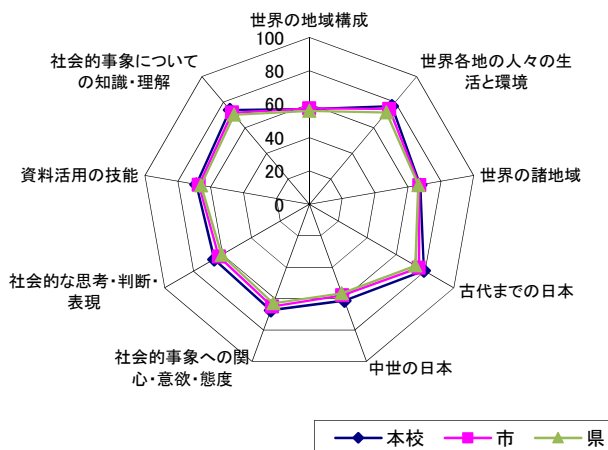
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は県平均より3.7ポイント高く、市平均より2.3ポイント高い。</p> <p>○「聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができる。」「話の構成を工夫して相手に分かりやすく伝えることができる。」が、県の平均を6ポイント程度上回る結果だった。</p>	<p>●聞き取りテストを授業の中で取り入れており、今後も継続して行っていく。また、テストに慣れるだけでなく、普段の授業の中で、話の聞き方やメモの取り方を意識させ、先生の話や友達の発言から要点を聞き取るようにする活動を取り入れていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は県平均より2.8ポイント低く、市平均より3.0ポイント低い。他の領域に比べ、正答率が低い。</p> <p>●すべての項目で、県の平均を下回っている。特に、「指定された文字数で書くことができる。」「3段落構成で文章を書くことができる。」の項目が低い。</p>	<p>●指定された字数で書くことや、段落構成を指定した中で書かせる活動を授業の中で増やす。書くことに対する抵抗感をなくしていく。</p> <p>●書く課題をできるだけ多く設定し、文章の書き方を定着させていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は県平均より2.9ポイント高く、市平均より1.3ポイント高い。</p> <p>○すべての項目で、県の平均を上回っている。特に、「文章の展開に即して要旨をとらえることができる。」「登場人物の心情をとらえることができる。」の項目が高い。</p>	<p>●前年度に引き続き、表現されている内容をじっくりと読み解く時間や、登場人物のしぐさや言動、また、情景描写から心情や気持ちを考えさせるような活動を継続していく。</p> <p>●個人作業のみではなく、ペア活動やグループ活動も活用し、長文の苦手な生徒も取り組みやすいようにする。</p> <p>●朝の読書の定着を図り、読書の質と量を高めていく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は県平均より6.7ポイント高く、市平均より5.6ポイント高い。</p> <p>○漢字に関しては、10問中9問が県の平均を上回っている。また、古語の単語の意味に関する問題も、正答率が非常に高い。</p> <p>●「一掃する」の読みの正答率が低かった。</p>	<p>●日常生活で、あまり使わない漢字の正答率が低い。</p> <p>●昨年度に引き続き、必要な漢字の読み書きのポイントを授業で取り扱ったり、宿題にしたり、小テスト等を行ったりすることにより、定着を図る。</p> <p>●歴史的仮名遣いや古語の意味については、古典の読解につながる基礎であるため、繰り返し指導していく。</p>

宇都宮市立姿川中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	57.2	57.6	56.0
	世界各地の人々の生活と環境	76.9	74.6	71.9
	世界の諸地域	67.5	67.0	66.3
	古代までの日本	79.3	75.7	73.3
	中世の日本	61.4	57.9	56.7
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	67.4	65.0	63.0
	社会的な思考・判断・表現	65.7	62.5	60.5
	資料活用技能	68.8	67.2	65.9
	社会的事象についての知識・理解	73.9	71.8	70.1



★指導の工夫と改善

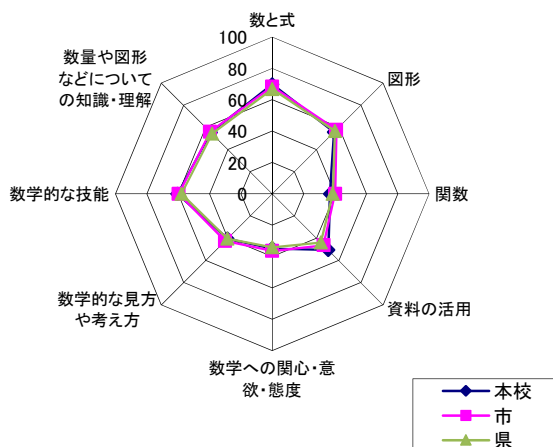
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	<p>平均正答率は県平均より1.2ポイント高く、市平均より0.4ポイント低い。</p> <p>○世界の地域区分を理解する問題は県・市ともに平均を上回っている。また緯線と経線が交わる地図の特色を把握する問題は、県・市ともに平均を大きく上回っている。</p> <p>●地図を用いて様々な観点からその特徴を読み取る問題の正答率が低い。</p>	<p>・授業中に様々な地図を用いて、それぞれの地図の特徴や国や地域の位置を読み取らせる活動を取り入れ、資料活用技能を高めていく。</p>
世界各地の人々の生活と環境	<p>平均正答率は県平均より5.0ポイント高く、市平均より2.3ポイント高い。</p> <p>○世界各地の生活の様子について自然環境と関連付けて把握する問題、雨温図をもとに気候帯を判断する問題は、県・市ともに平均を大きく上回っている。</p>	<p>・様々な地域の雨温図を読み取ったり、自然環境と生活を結びつけさせたりしてさらに資料活用技能の向上を図る。</p>
世界の諸地域	<p>平均正答率は県平均より1.2ポイント高く、市平均より0.5ポイント高い。</p> <p>○ヨーロッパの農業、世界各州の産業の特色を資料から判断・考察する問題は県・市ともに平均を上回っている。</p> <p>●西アジア・中央アジア・アメリカの産業を資料から把握する問題は県・市ともに平均を大きく下回っている。</p>	<p>・資料活用技能を高めていくために、一つ一つの資料の読み取りを丁寧に繰り返し行っていく。その後、複数の資料を関連させて読み取らせ、出題の意図に沿った解答となるよう助言を行っていく。</p> <p>・社会的事象の知識・理解については、授業中に反復練習を徹底することでさらなる定着を図る。</p>
古代までの日本	<p>平均正答率は県平均より6.0ポイント高く、市平均より3.6ポイント高い。</p> <p>○古代までの日本のすべての問題は、県・市ともに平均を上回っている。特に知識理解の問題の正答率が高い。</p> <p>●聖徳太子の政治の問題は、市平均を1.5ポイント下回っている。</p>	<p>・社会的事象の知識・理解については、授業中に反復練習を徹底することでさらなる定着を図る。</p>
中世の日本	<p>平均正答率は県平均より4.7ポイント高く、市平均より3.5ポイント高い。</p> <p>○時代区分の問題、武士の支配の広がり的问题、室町時代の東アジア諸国との交流の問題、日明貿易の問題は県・市ともに平均を大きく上回っている。</p> <p>●中世の諸産業の発達の問題は、県平均を下回っている。複数の資料を読み取り、それを分析する問題の正答率は低い。</p>	<p>・複数の資料を丁寧に分析し、様々な観点から表現していく活動を授業中に取り入れていく。また、自分の言葉で考えを表現する問題に苦手意識があるので、授業の振り返りを通して、自分の考えを表現する時間を確保する。</p>

宇都宮市立姿川中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	69.9	68.4	66.8
	図形	55.7	57.8	56.5
	関数	36.8	40.1	38.5
	資料の活用	50.5	46.3	43.8
観点	数学への関心・意欲・態度	34.8	36.4	34.1
	数学的な見方や考え方	40.5	42.5	40.5
	数学的な技能	60.4	59.6	57.9
	数量や図形などについての知識・理解	55.5	56.0	54.3



★指導の工夫と改善

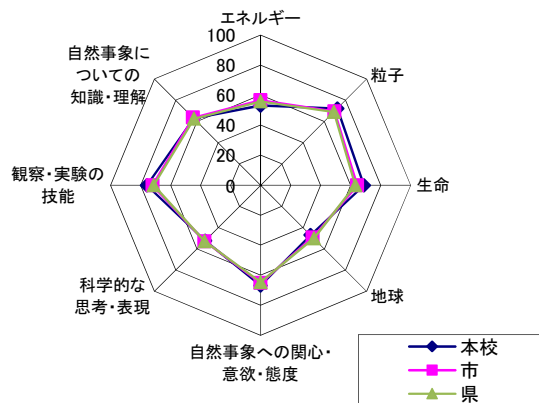
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率は県平均より3.1ポイント高く、市平均より1.5ポイント高い。</p> <p>○正負の数の四則計算、一次式の四則計算、一次方程式を解くことがよくできている。反復練習を通して、正確に計算する力が身に付いている。</p> <p>●文字を使って数量や数量の間の関係を表すことに課題が見られる。</p>	<p>・今後も、計算の反復練習を行う時間を設け、正確に計算する力を身に付けていく。また単元テストも活用し、計算を早く処理する力も身に付けていく。</p> <p>・文字を使って数量や数量の間の関係を表すことは、一度文字を具体的な数に置き換え、どんな式で表すことができるか確認し、もう一度具体的な数を文字に戻す指導を丁寧に行っていく。</p>
図形	<p>平均正答率は県平均より0.8ポイント低く、市平均より2.1ポイント低い。</p> <p>○直方体の直線の位置関係について、平行や垂直、ねじれの位置の関係についてほぼ理解している。</p> <p>●同じ底面で高さも等しい柱体と錐体の体積の関係について課題が見られる。また、おうぎ形や投影図などの用語やその意味の理解に課題が見られる。</p>	<p>・空間図形の直線や平面の位置関係は、模型やデジタル教科書などを用いて可視化し、体験することで理解を深めていく。</p> <p>・面積や体積の求め方をただ公式を覚えさせるのではなく、なぜそうなるのかを考えさせ、定着を図る。特に円錐を教えるうえで、おうぎ形との関連があるので、既習事項を確認しながら、指導する。</p>
関数	<p>平均正答率は県平均より1.7ポイント低く、市平均より3.3ポイント低い。</p> <p>○比例の関係にある1組のx、yから比例の式を求める求め方や、反比例のグラフの読みとり方についてはほぼ理解している。</p> <p>●与えられた式から、2つの数量の関係が比例であることを判断することに課題が見られる。</p>	<p>・表を読み取ったり、式を求めたり、グラフをかいたり適切に処理ができるように、今後も比例・反比例の表、式、グラフのつながりに注目した指導をしていく。また、比例定数がどこで表れてくるのかも丁寧に確認していく。</p> <p>・日常生活と関連した比例・反比例の教材を用いて、ただ処理する力だけでなく、既習事項を使ってどのように活用できるかを考えさせる力を育てるようにする。</p>
資料の活用	<p>平均正答率は県平均より6.7ポイント高く、市平均より4.2ポイント高い。</p> <p>○相対度数、範囲などの基礎的な用語やその意味を理解し、それらを求めたり、それらを活用して判断したりすることができた。</p> <p>●度数折れ線の特徴を読み取り、説明すべきこと regarding について数学的に説明することに課題が見られる。</p>	<p>・今後も具体的な場面を通して、基礎的な用語やその意味を確認し、定着を図る。</p> <p>・複数の資料を比べて自分の考えを数学的な表現を用いて説明することができるような力を育てるために、グループ活動などで自分の考えを表現する機会を設定する。</p>

宇都宮市立姿川中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	53.1	56.6	55.8
	粒子	72.3	69.6	69.0
	生命	68.8	64.4	63.0
	地球	47.0	49.2	50.2
観点	自然事象への関心・意欲・態度	66.8	65.2	64.7
	科学的な思考・表現	52.3	52.8	52.8
	観察・実験の技能	75.7	72.0	71.2
	自然事象についての知識・理解	63.1	63.7	62.7



★指導の工夫と改善

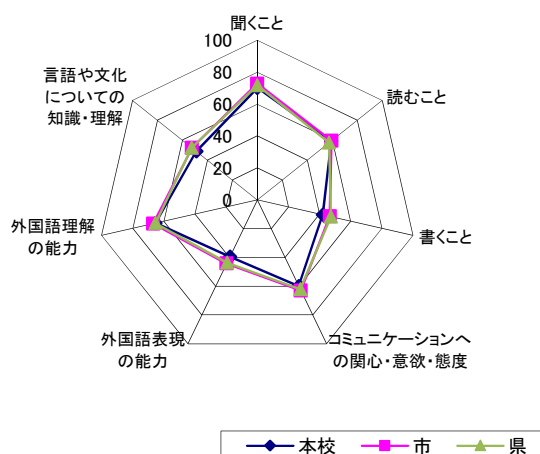
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>平均正答率は県平均より2.7ポイント低く、市平均より3.5ポイント低い。</p> <p>●全体的に県の正答率を下回った。特に、ばねがおもりを引く力を矢印で表す問題では、正答率が20.3ポイントと課題が見られる。</p>	<p>・力の大きさ、力の向き、力がはたらく場所の三要素をおさえ、繰り返し作図を行いながら知識の定着を図る。</p> <p>・まめテストや宿題(一問一答)を定期的の実施し、基礎的事項の定着を図る。</p>
粒子	<p>平均正答率は県平均より3.3ポイント高く、市平均より2.7ポイント高い。</p> <p>○全体的に県の正答率を上回っている。特に、発生した気体が二酸化炭素であることを調べる実験に関しては、92.1ポイントと正答率がとても高かった。</p>	<p>・個人が予想・考察する時間を設定し、自分の考えを文章化させる。さらに他者の意見と比較する場面を設ける。</p> <p>・課題解決型の実験・観察を取り入れていく。</p>
生命	<p>平均正答率は県平均より5.8ポイント高く、市平均より4.4ポイント高い。</p> <p>○全体的に県の正答率を上回っている。</p> <p>●植物を分類する問題は、大きく平均を下回った。</p>	<p>・植物の分類に関して、図書室の本を利用しながら、調べ学習などを行い、分類表をつくるなど主体的な学習を通して、知識の定着を図る。</p>
地球	<p>平均正答率は県平均より3.2ポイント低く、市平均より2.2ポイント低い。</p> <p>○岩石のスケッチについての問題は、県の正答率を上回っている。</p> <p>●地層の体積についての理解に課題が見られる。</p>	<p>・粒子の大きさによって堆積する距離に違いが生じることを図や映像などを用いてわかりやすく説明することや、各地質年代に反映した生物について、きちんと整理して覚える必要がある。</p> <p>・まめテストや宿題(一問一答)を定期的の実施し基礎的事項の定着を図る。</p>

宇都宮市立姿川中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	70.2	72.8	71.8
	読むこと	59.2	59.4	57.5
	書くこと	42.1	46.6	47.3
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	60.0	63.0	62.2
	外国語表現の能力	39.4	44.2	43.6
	外国語理解の能力	65.3	66.8	65.4
	言語や文化についての知識・理解	48.8	52.3	52.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>平均正答率は県平均より1.6ポイント低く、市平均より2.6ポイント低い。</p> <p>○絵を適切に表している英文を聞き取ったり、英文の要点を聞き取ったりすることはよくできている。</p> <p>●対話の内容を聞き取り、適切に応答することに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスルームイングリッシュを多用したり、帯活動として洋楽を聴いたりする活動を継続していくことで、生徒たちがより多くの英語を聞く機会を作るようにする。 ・スモールトークなどで教師と、または生徒同士で短い対話のやり取りをすることで、適切に応答する練習の場を作るようにする。 ・授業や単元末テスト・定期テストでのリスニングを継続して行い、英文を聞き英語で答える練習や、読まれる英語の中から正しい解答を選ぶ練習を増やしていく。
読むこと	<p>平均正答率は県平均より1.7ポイント高く、市平均とほぼ同じである。</p> <p>○対話の流れと資料の情報・条件をもとに、適切なものを選ぶ問題では、県の正答率を7.5ポイント上回っている。</p> <p>●全体として県の平均を上回っているが、読み取った内容をふまえて、英文を完成させる問題の正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長文の音読練習を授業で多く取り入れているため、意味をとらえながら読む習慣が少しずつ身に付いている。今後、身近な問題を取り上げた新聞記事などを授業の中で活用したり、英文の量を少しずつ増やしたりしていくことで、長文への苦手意識を減らしていく。 ・まとまりのある英文を読み取るための語彙力を定着させるため、継続的な単語練習を行っていく。
書くこと	<p>平均正答率は県平均より5.2ポイント低く、市平均より4.5ポイント低い。</p> <p>○単語を正しく書いたり、対話の流れに合った英文を正しく書いたりすることができている。</p> <p>●テーマに基づいてまとまった英文で書き表す問題では、県の正答率を9.8ポイント下回っている。無回答率が2割近くあることも課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・弾丸インプットや単語テストを活用して、語彙力の定着を図る。 ・基本本文の音読練習を繰り返し行うことで、英語の文構造を正しく理解し、語順を意識して英作文ができるよう指導していく。 ・語彙の並べ替え問題や穴埋め問題などのドリル活動を多く取り入れることで「英文を書く」機会を増やし、書く習慣が身に付くよう指導を行っていく。 ・「テーマに沿ってまとまりのある英文を書く」活動を定期的に実施していく。

宇都宮市立姿川中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の質問に肯定的に回答した生徒の割合が、市・県平均より上回っている。これは、毎日自主学習ノートを提出させたり、帰りの会で、その日家庭で学習する内容を自主学習ノートに書かせたり、定期テスト前には「学習・家庭学習強化週間」を設定し、学習計画表を作成させ計画的な学習ができるように助言したりしていることが功を奏していると考えられる。今後も、ノートが未提出の生徒への指導を行うとともに学習内容の質を高める指導を継続していく。

○「学校の授業以外に、ふだん(月～金)または学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」の質問に「2時間以上」と回答した生徒と、「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」の割合が、どちらも市・県平均より上回っている。本校では家庭学習は「毎日決めた時間に自分から」「2年生は平均して2時間以上」家庭学習に取り組むことを呼びかけている。今後もこの指導を継続していく。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」と回答した生徒の割合は82.4%と高い割合を示しているのので、これを利用して互いに学び合う授業形態を工夫し、学力の伸長に努める。

●「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」と回答した生徒の割合は、市に比べて2.9ポイント下回っており、今学んでいることが将来につながる考えを持っていない生徒の割合が多い傾向が見られる。社会体験学習やキャリア教育を通して、自らの将来に夢を持ち、その実現に向けて自学自習する大切さを指導していく。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くのは難しい」の質問に肯定的に回答した生徒の割合が、市・県平均より下回っている。授業の終末で、生徒が学習内容を自分の言葉でまとめる活動を通して、表現力を高めるための指導の工夫と改善に努めていく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基本的な学習態度の定着と育成	授業2分前着席の励行、基本姿勢、「はい」という返事、グループ学習の参加の仕方を意識した授業への取組を指導している。	「授業を集中して受けている」の質問に肯定的に回答した生徒の割合が93.4%で、昨年度と比べて0.8ポイント増加している。また、これは、市より0.1ポイント下回っているが、県より1.8ポイント上回っている。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	すべての授業で、本時の「ねらい」または「学習課題」と「まとめ」を明示し、めあてを達成するための効果的な指導法を工夫している。また、グループでの学習を適切に取り入れるなど、協働して課題に取り組ませることを通じて、生徒が自ら考え、表現する能力を高められるよう指導している。	「授業の中で、目標(ねらい)が示されている」の質問に肯定的に回答した生徒の割合が94.8ポイントと、市より0.2ポイント上回っているが、県より2.0ポイント下回っている。「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」との質問に肯定的に回答した生徒の割合が85.4ポイントと、市や県よりも上回っている。
家庭学習の習慣化と定着	年度当初、全校生徒に自主学習ノートと「家庭学習の手引き」を配布し、家庭学習の取り組み方について指導し、自主学習ノートを毎日提出するように指導している。定期テスト前に「家庭学習強化週間」を設定し、学習計画表を作成させ、学習時間を意識した家庭学習ができるように指導している。	「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の質問に肯定的に回答した生徒の割合が71.2ポイントと、市平均より2.5ポイント、県平均より5.2ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「家でテストで間違えた問題について勉強している」の質問に肯定的回答をした生徒の割合が、市の平均よりも約1.7ポイント下回っている。	テストで間違えた問題をもう一度やり直す習慣を身に付けさせる。	テストが終わったら、自主学習ノートにテストの直しをするよう指導する。また、テストの問題のやり直しをすることが学力向上につながることを、学級指導や保護者会などでも伝え、指導していく。